

総務産業委員会報告書

平成26年11月14日

備前市議会議長 田 口 健 作 殿

委員長 田 原 隆 雄

平成26年11月14日に委員会を開催し、次のとおり議決したので議事録を添えて報告する。

記

案 件	審査結果	備 考
1 定住対策及び公共交通についての調査研究 ① 公共交通について	継続調査	—
2 観光及び公園についての調査研究 ① 委員派遣について ② 古代体験の郷「まほろば」について	継続調査	—
3 地域ブランドについての調査研究 ① シティセールスについて（豊川市行政視察まとめ）	継続調査	—
4 公有財産についての調査研究 ① 公共施設について（焼津市行政視察まとめ）	継続調査	—

<報告事項>

- 企業誘致について（まち営業課）

《 委員会記録目次 》

招集日時・出席委員等	1
開会	2
報告事項	2
閉会中の継続調査	7
閉会	16

総務産業委員会記録

招集日時	平成26年11月14日（金）	午前9時30分		
開議・閉議	午前9時30分	開会 ～	午前10時38分	閉会
場所・形態	委員会室A・B	閉会中の開催		
出席委員	委員長	田原隆雄	副委員長	川崎輝通
	委員	山本恒道		尾川直行
		掛谷 繁		西上徳一
		山本 成		
欠席委員	なし			
遅参委員	なし			
早退委員	なし			
列席者等	議長	田口健作		
傍聴者	議員	石原和人		
	報道	なし		
	一般	なし		
説明員	まちづくり部長	高橋昌弘	日生総合支所長	星尾靖行
	まち営業課長	下山 晃		
審査記録	次のとおり			

午前9時30分 開会

○田原委員長 おはようございます。

ただいまの出席委員は全員であります。定足数に達しておりますので、これより総務産業委員会を開会いたします。

せんだっては行政視察、全員御参加いただきまして、ありがとうございました。きょうは議題の中にも、その反省点も含めて総括もしていきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたしますと思います。

きょうの総務産業委員会につきましては、机上審査を約1時間程度やらせていただいて、その後、古代体験の郷の現地視察を行う予定にさせていただいておりますので、よろしくお願いいたしますと思います。

***** 報告事項 *****

まず、報告事項から先に行いたいと思っておりますので、担当のほうでよろしくお願いいたします。

○下山まち営業課長 企業誘致をしております香登、畠田の分でございますが、現在の進捗状況をお知らせしたいと思います。

9月のときに土地購入費の補正をさせていただきまして、それ以降、用地交渉に励みまして、当初の予定をしておりました区画は全員調印ができて、今、登記の申請をしとりまして、登記所有権移転が完了後、用地代をお支払いするところまで来ておりまして、今の予定では12月中旬に用地費用を地権者の方にお渡しするということでございます。

その区域外、区域の中は全体なんですけど、道を挟んだところで2筆、今ちょっと難航しております。難航しておりますというのが所有権のことございまして、1件は、私どもが言う前に、10年以上前に約束事があったと、売買するという決め事の文が見つかったと。その当時の両者がもうどちらもお亡くなりになつたということで、それがどうなのかということで弁護士とも相談をしながらということで、地権者の方が相談されたとということで、どちらにしても、うちのほうが契約をするということになっても、決まったらそういう部分での交渉をしたいというふうには考えておりますが、その土地が購入できなくても事業のほうは進められるということでございます。そこはうちのほうが緑地だとかに考えておったところでございますので、別のところで確保ができる予定でございますので、事業本体に関しては問題がないというのが1点。

もう一点が、企業が持つ土地ございまして、私どもが購入をしようという購入希望の金額と簿価との差が約3倍あるということで、企業のほうが難色を示している。面積も大きゅうございますので、その辺で交渉が難しいかなと。最悪、うちのほうは借りるというような選択肢も残して今後交渉していきたいと。購入がことしじゃなくて、来年度以降になるという可能性もあるというふうに考えておりますのが今の状況でございます。

それから、開発申請に向けての土地のボーリング調査だとか、そういう申請云々に関してのコンサルタントへの業務委託というものの入札をいたしまして、業者が決定しております。開発申請に向けて今後ボーリング調査等含めてやっていくという状況になりまして、一応3月までの契

約ということにしておりますが、その申請をした後、手直し等も発生する可能性もございます。業者も決まったということである程度のスケジュールができておりまして、最短で来年の10月から造成工事ができるかなど。最短で、開発申請をして県からのオーケーをいただいて、入札をして、実際の工事ができるというのが10月ごろかなということでございます。それに向けて今頑張っておるというところで、今のところ報告できるのはここまででございます。

○田原委員長 報告事項についての質疑がありましたらどうぞ。

○掛谷委員 私あの辺を散歩していて、もう既にボーリング調査をやっていました。コンサル業者決定、3月までということで、もう決定はされてやっつけられるんじゃないかと。内容がこれからというようなニュアンスのような感じですけど、そぐわないというか、どうなんでしょうか。

○下山まち営業課長 現在やっておりますというのは、ボーリング調査ではなくて、あれは私どものがやっておるものではございません。今現在企業誘致に向けて業者さんと接触をさせていただいております。まだその名前までは言えないですが、その業者さんが自分のところで、ボーリングと言えばボーリングですけども、井戸ですね、取水ができるかどうかという調査をさせてほしいと。水が出るようであれば立地を考えたいという御提案がございまして、それはうちのほうも費用も要りませんし構いませんよということで許可を出させていただきまして、そこでやられているということでございます。

ですから、直営でやっておるのではなくて、業者さんが私どもの承諾を得て、水質等も含めた調査をやっているということでございます。

○掛谷委員 企業はどこ企業か、区域外のところですね、難航していると、3倍も開きがあるという話があったり、約束が10年前にあったとか、そこらあたりのところは今さらという感があるんですけども、3倍の値段というのは交渉でしようがないんでしょうけど、たしか2カ所あったと思うんですけど、それがどっちがどうなのか、企業が全部持っていたんじゃないかと思うんですけど、ちょっとその辺を。もう買収するのに予算を通しているわけですけど、その辺の事前調査というのはどうだったんでしょうか。

○下山まち営業課長 まず、企業さんのほうでございまして、面積が大きい小さい面積のところは今回売買契約をさせていただきました。あくまでも単価が高くても少額であるということで、その分はオーケーをいただきました。大きな面積のほうは、本体の業績がよければ売却も考えたんですけども、今期の決算が非常に悪いということで、損金扱いにするのに取締役会等で非常に問題があるという判断をされたようで、来年度業績が上がれば売却も考えるというところまで言っていたいておりますので、それまでうちは借りると、無償で貸してもいいよとそこまで言っていただけのようなところまで来ておりますので、これはちょっと想定外であったという部分がまず1点。

それから、10年前に売買があったというのも、私ども全くわからずに、相続人の方も知らなかったんです。その紙が出てきたと、私どもが交渉というか話をしているところに。相手方のほうにもそういう紙が残っていたということで、それが後から判明したと。私どもはなかなか口

出しができませんので、地権者のほうは弁護士とも相談するというので期限を設けて、売買、名義は変わっておりませんし、金銭の授受もないということで、いついつまでにこういう金額でという交渉をされているようでございまして、そこには私どもも間へ入っていけないということで、うちのほうがそういうふうになったということで。ただ、救いなのが企業立地をする本体側の大きな面積のところじゃないと、あくまでも緑地にしようというところでもございましたので、それがなくてもうちのほうは進められるという判断のもとに、そういう部分には考えてはおりません。そこまでしか言えないのが現状でございまして、御勘弁願いたいと思います。

○川崎副委員長 非常に急いでやっているということは、ほとんど来ていただける企業があるという前提の説明に聞こえるわけです。実際のところ水質調査までやるような、水が出れば立地に参加しようかという企業を含めて、一体何社ぐらい、2ヘクタールか3ヘクタールか、次々ふえとんで頭に入ってないんやけど、何社予定をしているのかということと、現実に来年造成が10月から始まるということになれば、ほとんどこちらとしては予算も組んでいるし、どんどん工事もするというので、誘致する企業がなければストップするのが常識じゃないかなど。全国に視察に行っても、企業誘致が決まってから造成をすると。所有権は変えとったとしても、やはり要らん金は早期にはかけないというような姿勢のところが多いんですよ。それをかけるということは、ほとんど確定的に物事が、誘致が進んでいるのかなという点で、何社予定しておるのか。

もう一つ気になったのは、あえて企業が持っている用地を3倍もじゃないと売りませんというような、企業誘致しとるところを企業誘致で買うというのは私は矛盾していると。そんなところじゃなくてもっと東側を、水田とかそういうところを買うべきではなかったのか、そういう思考はできなかったんですか。何もお隣企業で空き地がありゃあ日も当たっていいわけで、そこが遊ばせとんだったら遊ばせときゃええから、もっと安くて手に入れられる東側を必要な面積だけ買い取るという思考方法はなかったのか、2点お聞きしときます。

○下山まち営業課長 何社ということですが、当初から申し上げておりますように、企業のオーダーメード形式ということのうちが区画をつくらずに売るということをコンセプトでいっとりました。ですから、約3ヘクございまして、3ヘク欲しいという会社であれば1社になる、1ヘクでいいということであれば3社という格好になると思います。今現に接触している業者はございまして水質検査というのがありますが、今ここで言えるのは2社頑張っております。面積的にはまだ決まっておりますが、今の感触では2社で全部を売り切れるかなあということで交渉しておりまして、1ヘク、2ヘクになるのか、1.5、1.5になるのかその辺はわかりませんが、私どもは少しでも多くというふうに思っておるわけですが、規模にもよりますので、そこまでしか言えないというので御理解願えればと思います。

それから、土地の選択方法というか、セレクトする方法が間違っていたんじゃないかということですが、ふやすときに御説明はさせていただいたんですけども、当初、区画の中全体で調整池だとか、企業のほうで緑地を持っていただくというふうに検討しておりました。そうなりますと企業が使える面積が少なくなると。少しでも有効利用していただきたいということ

で、区域外に緑地だとかというのを設けさせていただきたいということで追加のお願いをさせていただいたと思います。その外へ向けたときに考えたのが、たまたま隣の持っとられる土地が
いているんだと。それでしたら、そこを私どもが買って、緑地なり調整池にしたほうが有利だと、呼んでくるときにも有効面積がふえるということで、そういう選択のもとにそこをセレクト
させていただいたということで、当初はそこは考えておりませんでしたけども、やはり少しでも
たくさん売りたいと、有効利用したいということでそういう格好になったということで御理解願
えればと思います。

○川崎副委員長 地図がないのでどこかというのがよくわからないですけど、あえてこちらが取得しようという3倍の値段のようなところを、それも企業が持っている土地なら景気がようなり
やそこにも工場が建つか何か、その企業さんが企業活動する必要な土地なんですから、あえてそ
ういうところを買い取るよりも、農業を否定するわけじゃないけれども、やはり農地なりを安く
買い上げて、より入ってくる企業が土地を取得しやすいところを広げたほうがいいんじゃないん
かという点が、もう一つ納得できないんですけど。

○下山まち営業課長 今購入を希望しておるというのは、隣の土地の中じゃなくて、道を隔てた
離れたところですよ。で、その企業としても、企業がもともと緑地だとか調整池で持っとられる
と。飛び地になっているんですよ。それがなくても問題ないという見解がございますので、それ
でしたら有効利用、今の隣のところもしていないんだしたら、うちのほう買って有効利用し
たほうがいいかなと。

ただ、金額に関しましても3倍の金額を出す気はこちらもございませんし、あくまでも当初提示
させていただいた金額以外は買いませんということはしとりますので、逆にそれを購入しなく
ても、先ほど言いましたように、うちのほうは事業は進められるわけですから、余っているんじ
ゃないのというお話をさきに持っていかにしていただいて、向こうもそりゃ余っているよと。それ
で、開発に関して備前市さんが有効利用できるんであれば売ってもいいねとそこまでは言ってお
ったんですけども、担当者といましては簿価というものがあつたと。ここで言っているのか
どうかわからないんですけども、当初買ったときの分はミサワ本体が買っていなかったんです
ね。今のミサワテクノという当初の会社がございましたが、そういう子会社が持った土地を
ミサワ本体が高い金額で購入をされたと、そういう部分で簿価が上がったということの経緯もあ
るようでございます。そういう部分で簿価というものがあるので、実勢価格としたらその金額だ
というのは重々向こうの方もわかっておりまして、それで買えというのは言われませんが、ちょ
っと待っていただきたいと。向こうも遊んでいるというような土地でございますので、処分はし
たいという気持ちも担当者は持っとられるというのが本当の話でございまして、中の部分を一部
切って分けてくださいというのではないので、地図を見ていただいたらよくわかるころだと思
います。

○川崎副委員長 だから、それが企業の景気次第だという説明だったので、もし長引くようであ
れば、その面積の分は、たしか東は全て図面では水田だったと思うんですよ。だから、来る予定

の2社がどうしても必要な土地だというんだったら、あえてそこに、ミサワさんを助けるという意味もあったのかどうか知りませんが、それはそれで保留にしたまま東を、同じような面積を買い取って、より企業誘致をしやすいような考え方というのはできないんですかということ念のためにお聞きしときます。

○下山まち営業課長 今の土地の形状で、西も東も適地というのはございません。

○川崎副委員長 南は。

○下山まち営業課長 北が赤穂線、南が香登川ということで区切られておりますので、それ以外というのはちょっと考えられないというのが現状でございます。

○尾川委員 具体的に言われんと思いますが、2社というのは、どの程度踏み込んで答弁してもらえるかわからんですが、どういう感じの企業、例えば製造会社であるとか、無理ですか。

○下山まち営業課長 それは、まだ決まっておられませんので、御勘弁願いたいと思います。

○尾川委員 井戸を掘る、水質を含めてということだったんですけど、そういうことは開発にはならんのですか。その辺の行為、備前市が見て見ぬふりをして勝手に穴を掘って調べているくらいの感覚でいいんですか。その辺をちょっと確認のために。

○下山まち営業課長 勝手に掘っているというんじゃなくて、私どもが許可を出しております。

○尾川委員 許可するということは開発ではないんですかという話をしようるん。

○下山まち営業課長 井戸を掘ると、井戸を掘るための検査ということでございますから、これは開発行為には当たらないということでございます。

○山本（恒）委員 今の関連じゃけど、それはこの人にはさせてというたりするのは余りようねんじゃねん、今から。談合みたいなんじゃねん、表現が悪いかどうかわからんけど。あの人のところはええというたりしてから、それをみんなに、ここで買収が大体できそうなんですよ、参加する人は出てきただせえというようなもんを明示してからせなんだら、この人とこの人だけはよろしいというて、ほかの人は知りませなんだ、安かったらわしも買ったかったのにと言うたりする、そうは出てこんのかな、そねえなもんは。

○下山まち営業課長 今委員が言われるのは、公募したほうがいいんじゃないかという考え方だと考えております。それも一つの選択方法というふうに私どもも認識いたしております。

ただ、企業誘致ということで、私ども日夜県外も含めて回っておりますし、県からもそういう情報ももらいながらやっております、そういう部分での金融機関との接触もいたしまして、企業が考えておるとい部分での話でございます。いろんな部分での勘案をして、今私どもがまた見つけてきたというか、向こうからのアクションもあったものもございしますが、それで今交渉をしているというのが状況でございます、早い者勝ちということではございませんが、あくまでも私どもがやっているということでございますので御理解願えればと思います。ですから、こっそりやっているというのではございませんし、こういうのがあるということで県のほうにも応援をいただいていると、ある部分公表はしているというふうには認識しております。

○山本（恒）委員 それじゃったら、ぱさっと出して、うちは3ヘクほど、できたら2.5にな

るかわからんけどありますよというものを、先に知らせなんたら、そりゃ個人的な会社が、ここら周りの会社みたいなところがするんじゃないってえけど、仮にも一応一時払いというたりしたら備前市の銭が行くんじゃったら、そりゃあここら周りの人が買やあ、でもよその人が買うとしても、せえのほうか、担当か市長かわからんけど、どさっと表に出しとったほうが、何の変もねえ、ここへ出しとったよ、いつのこうこうにというて言えるが。

○下山まち営業課長 そういう考えもあると思います。

ただ、今そこへ出すと、団地ができてから、単価も決めてからでないとなかなか厳しい部分があるかと思います。ですから、そういう塩漬けにならない、できれば私どもはでき上がったらすぐ売買契約を結びたいというふうに考えております。塩漬けにならないようにということで、日夜営業活動しておりますので、考え方はもう委員が言うのもようわかります。あくまでも公平公正ということで公募というスタイルもとれるかと思います。それはきれいにできた段階でということですが、私どもは当初申しましたようにオーダーメイド方式、ある程度決めてから面積も区割りをするというやり方でやっているということで、こういう体系をとらせていただいているというふうに御理解願えればと思います。

○田原委員長 それでは、報告事項はこれにて終結して、本題に入りたいと思います。

***** 閉会中の継続調査事件に関する調査研究 *****

閉会中の継続審査ということですが、まず定住対策及び公共交通についての調査研究に入りたいと思います。今日は公共交通についてを議題といたします。

審議に入るわけですが、執行部から報告等何かその後の、この件についてありましたらお願いしたいと思いますが、いかがですか。

○下山まち営業課長 前回の委員会的时候にも若干お話しさせていただきましたが、第1回目の備前市の公共交通会議が10月21日に開催されました。

協議内容といたしましては4点ございまして、1点目は副会長の選任ということで、前回の委員の任期が切れておりましたので、任期後に役員改選ではございませんが、選任も含めてやりました。会長はうちの市長でございますが、副会長といたしまして岡山商科大学の准教授大東正虎様が就任をされました。これは大学との協定ということでございまして、今までは岡山の先生でございましたが、連携したということで商科大学のほうから推薦を受けまして就任された委員でございます。

2点目でございますが、公共交通会議の設置要綱を一部改正させていただきました。改正させていただいた内容というのが、公共交通会議、今までは全般でやっておったところを、陸上と海上と2つに分けてやろうと。だから、全体的な部分はまたあるんですが、その中で部会じゃないですけど分けて開いて両方まとめると。だから、海の部分、陸の部分というふうに分けてやるということで改正をさせていただきたいということでの協議。

次に、路線バスの南北線、南北線といいますのが、吉永から伊里駅を經由してマルナカの穂浪店まで行くというルートを走らせたい。これはあくまでも試行で走らせたいということで、新規

のダイヤとか、それからバス停が1カ所ふえます。1カ所ふえるというのが伊里駅に停車するというので、バス停を1個こういうふうに設けるということでの協議。

それから最後でございますが、片上沿線活性化対策事業の中の協議会の中の一つであります和気経由で周匝まで行っておりましたバスを、うちのほうとしたら片鉄線を来年の10月以降は別ルートで考えたいということでの協議を4点、うちのほうから出させていただきました。

協議事項の内容につきましては、いろいろありまして、4点とも今のとおり承認されたというようなことでございます。

その中で1点会議の中で委員の中から出ましたのが、タクシー事業者さんでございまして、タクシー事業者さんのほうが、こういうある部分ふやされると、極端な話、南北線なんかであれば閑谷学校へ行かれるという方が、バス路線の本数が少ないのでタクシーを利用される方が非常に多いんだと。これはうちのほうの死活問題ということでの問い合わせ等が実際ございました。タクシー事業者さんを圧迫するという可能性も当然否定はできませんので、私どもはタクシー事業者さんをお助けするというのではございませんが、今後はタクシー事業者さんを含めるということではございませんが、以前にもちょっと御説明させていただきました乗り合いタクシー、グループタクシーというんですが、そういう公共交通機関のバス停だとか駅からある一定の距離を離れた方には補助を、助成券を出してそういう方に乗っていただいて利用促進を図るというものも、以前にも御紹介させていただいたと思いますが、そういう部分も考えておりますので御理解願いたいというような御説明をさせていただきまして、御承認を得たというようなこともございます。ざっくり申しまして簡単ではございますがそういうことで終わったということで、公共交通会議の話です。

これを受けまして、今回9月の補正をさせていただきました車両をこれから入札を行い、順次やっていくという予定で今現在進んでおるといのが現状でございます。

○田原委員長 それでは、委員の皆さんの御議論をお願いしたいと思います。

○掛谷委員 片上沿線、これは結局脱退を前提にお話をされてオーケーをいただいたのかどうか。まだ、これは決まっていなかったと思うんですけど、これ1点。

もう一つは、宇野バスと競合するところはないと、もちろんあってはならない。ただ1点、宇野バスが片上まで来ています。ここで言いましたら、日生線の中で備前病院まで行くとなれば、これ国道250号を通過して、一部この辺がひっかかるのかなと思ったり、心配しますが、宇野バスとの協議は大丈夫なのか。もう一つ言えば、片上起点という、これを新規にやる場合、宇野バスとの時間差、いわゆる待ち時間の問題を多く言われています。その辺の協議はこれからでしょうけどどうなのか。

3点目は、これも今後のことではと思いますが、タクシーのチケット、要綱等そういったものがどういふふうな対案を考えているのか。その3つ、簡潔でいいですので、よろしくお願いします。

○下山まち営業課長 まず、1点目の片鉄線でございますが、これは協議会を脱退するというのじゃなくて、協議会の中でやっておりますバス運行に対して、そのバスには参加しないというこ

とでございます。これはあくまでも私ども備前市だけでオーケーが出るというものではございませんので、市長のほうはそういう会議に出て抜けさせてほしい、すぐじゃなくて来年の9月までは今のまゝいって、10月からは抜けさせてほしいという申し入れをさせていただきました。各市町の公共交通会議にも諮り、そこで承認が得られて初めて脱退というか、そのバス事業に関しては抜けさせていただくという格好になるかと思えます。和気が10月の下旬に協議があったと。赤磐のほうは中旬、ちょうど今ごろになるんだと思いますが、日程までは聞いておりませんが、そこで公共交通会議を開いてやるということで、それを持ってまた幹事会を開き、それからもしオーケーが出るとすればプレス発表になるのかなというふうな経緯でございます。

この会議の中でも、それに代替として備前市が考えるんならいいねということで承認をいただきましたし、私ども実は独自に、今使われている方がおられるわけございまして、その方の意見も聞かせていただきました。その方の意見によりますと、今、片鉄は常時行っているのではなく、夏休み、高校生が休みのときには運休していると、朝運休しているというような状況ですよ。その方は社会人ございまして、お勤めされている方なので、そうなりますとわざわざ東岡山まで出て、それから本線に乗りかえて和気まで行っていたんだと。料金も非常に高くつくんだと。時間もかかると。それであれば、料金も安くなって非常に便利がいいということで御承認もいただいたというような経緯もございまして、その辺は利用者の意見も含めて考えているというのが現状でございます。

2点目でございますが、宇野バスとの競合云々、それから待ち時間の問題でございますが、今現在も備前病院のほうには行っております、乗り入れをしております。ただ、その間、なかなか停留所ができないというのが現状の部分でございます。宇野バスさんとは、当然、今来ているのがまた途中で来なくなってもいけませんから、それは当然権利の問題もございまして、協議しながらやっていくということでございまして、待ち時間に関しましても、当然乗り継ぎがいいような真っすぐのバスだけじゃなくて、片上へ着くのであれば、JRの時刻表も当然見ないといけないかと思えます。それも上り下りということで、ダイヤ改正というのは非常に難しゅうございまして、できるだけ全てをクリアできるような時間帯で考えていきたいと思っております。

タクシーチケットでございますが、市長が前回の議会でも申しましたとおり、来年の当初に向けて現在試算をしている状況ございまして、当初予算には計上するという事で要綱等も含めた部分でかつちりしたものがある程度できれば、また皆様に御提示なりはさせていただきたいというふう考えております。

○掛谷委員 和気町、赤磐市、この協議会、脱退という言葉は正しくないかどうかはわかりませんが、赤磐は開催されていないかもわかりませんが、この新しいルートを開設するのは私も賛成ですけども、何せ何十年もやってきた事業なので、和気町はもうやられたんだと思うんですけど、状況はどうだったのかお聞きしときます。

○下山まち営業課長 実は、和気町のほう赤磐市よりも影響が大きいというふうには聞いておりました。なぜかと申しますと、清水とか中山の方で乗られている方がおったと。ただ、和気町

は乗り合いタクシー、予約型の分をやっております。それで対応するという事で御承認は得たというふうに聞いてはおります。

○川崎副委員長 私、見て疑問に思うのは、吉永マルナカの南北線と、三石片上ですか、伊部の東西線、これと今度新設予定のオレンジ色の線、伊部吉永線ですか、これ乗客数が多いから、こういうわざわざ二重になるような線を新設するのかなと。どうしても片上から吉永へ行く方は、まず三石行きの東西線に乗って、伊里中でおいて、南北線に乗りかえるのが無駄がないんじゃないかなと。わざわざ二重ルートをするというのは、よっぽど乗降客が多いのかなと。あえて新設ということに伊部吉永線を考えているのかどうか、ちょっと疑問なので、どうなのでしょう。

○下山まち営業課長 言われるのもごもっともかと思えます。

ただ、これが今、私どもが考えております、片鉄線の代替えというふうに考えております。

これが、和気に直接行っていたのが行けなくなる、片上の方、伊部の方なんか、乗りかえて行くというよりもストレートに吉永駅まで行けて、和気のほうに行けるということで考えております。それと、高校生も乗りかえをせずに、すぐJRのほうへ乗れると、吉永駅へ行けるということで、利用促進が非常に上がるだろうというふうに考えております。

○川崎副委員長 いえいえ、それは今度脱退して香登熊山線ができれば、当然それで和気にストレートに、一周ルートでしょ、この黄緑色の香登熊山学び線は。香登から片上の辺まで宇野バスと何かぶつかるんじゃないかなという危惧はありますから、宇野バスがどう言われるか知らんけど、文句言われりゃあ、香登の辺で、駅の辺でとめればええんかなと思ったりします。香登熊山学び線を先にやれば、伊部吉永線は必要ないんじゃないかなあという感じはしたんですけど。

○下山まち営業課長 おっしゃるのはごもっともだと思えます。

ただ、一番の問題が、やはり私ども備前市だけでできないというのがまず1点。これは他市町を走るということで、公共交通会議にもかけてやらないといけないという部分ですから、これは今、私どもはすぐには考えておりません。その状況を見ながらですから、来年の10月からはなくなるという前提がございますので、まず吉永へ行くのを優先して、JRのほうとつなごうというのがあります。それで、準備ができ次第、香登熊山学び線が走るのであれば、それは当然、そっちのほうがよくになりますから、そのときにまた切りかえていくと。あくまでもこれは決まったものではございませんし、状況を見ながら、試行しながら、いろんな部分で変えていくというふうに考えておりますので、これだけを見ると、今、副委員長が言われるように、そういうふうな考えも当然発生すると思われま。ただ、順番を追ってやっていきますので、その辺は無駄のない路線で当然私どもも考えていきたいというふうには考えております。

○川崎副委員長 わかりました。乗降客が多くなるかどうか、高校生の問題があるということで、逆に備前病院から吉永ルートは二重になっていますので、ダイヤ密度がよりきめ細くなるという捉え方でよろしいですね。

○下山まち営業課長 そう考えていただいたら非常にありがたいと思えます。

○山本（恒）委員 これは、今言われたように、ぎょうさん走ったら銭が要るようなんじゃないろう

けど、いろいろ考えよんじゃろうけど、プロの宇野バスと競合したり、神姫バスと競合したりするようになるので、定住自立圏で、今走りようる赤穂へ行きょんやこうでも、私も1回乗ってみただけど、産業道路ばあ通って、そりゃあもう企業等で打ち合わせで、なるべくみんなの乗りおりするところは民間ので、公はとんでもねえ産業道路、赤穂のほうの広れえところを通って、おりてえところがどこやらわからんような、あねえなのはさっきタクシーが言ようたように、うちの営業権がもうからんようになるからよそを走らせてくれえというて言われるんじゃろうけど、もうちょっと話し合いというんか、そりゃ備前病院やこう宇野バスのところを通らせてもろうて行きようけど、もうちょっとどねえにかならんのん。

○下山まち営業課長 やはり路線ということで、私どもは今一番に大きな部分では宇野バスさんの部分、これを見ていただいたらわかるように、西鶴山でございますね、長船から西鶴山へ行くにしても、当然今では香登のところだとまるようになっていきます、計画でも。これをなかなか片上だとか伊部のほうへ向けるというのが非常に難しいんです。この計画の段階で入れてしまうと、宇野バスさんがいい顔してくれない。もうそれだったらいいよと、私どもは平島でとめるよと。宇野バスさんとしたら、今、路線で採算が合うというのは平島までだというふうにお聞きしとるんです。段階的に八日市でもいいよというような、お話し合いをするとそういう口ぶりも出てくるということで、非常に私どもも苦慮しているというのが現状でございますので、あくまでも日生運輸さんは別として、今、宇野バスさんは補助も出さずに片上まで来ていただいているというふうに私どもも認識しておりますので、やはり大事な路線でございますから、そこは大切にしていきたいというふうに考えております。

委員言われるように、利便性が一番でございますので、生活をしているところですから。極端な話を申しますと、宇野バスが2号を通っているから私どもは旧道を走ればいいんじゃないのと、そういう意見までもあるんです、実際には。あるんですけど、そういう部分では非常に厳しい部分もございますから、行政といたしましては圧迫も考えないといけないし、皆さんの全体的なことを考えていって、現状で苦肉の策というふうな部分で御理解願えればと思います。その辺は利用促進を含めて、宇野バスもこれをつけることによって乗車率が上がるということでの全体的な考え方を持ってやっていきたいと考えておりますので、御理解願えればと思います。

○尾川委員 宇野バスの話が出たんですけど、赤磐が林野線をすみ分けしとるのがたしかあったと思うんですよ。あるところまでは宇野バスが直営して、それから周匝ぐらいたったかな、周匝から林野あたりまでを自治体がある程度絡んでやっとなら、私もよう研究してないんですけど、そのあたりを一遍調査、こっちでせにゃあいけんのんかわからんですけど、一度参考に調べてもろうたらどんなんですか。

○下山まち営業課長 私も、林野まで行っていたのを途中でやめたという、宇野バスさんがやめたというのはお聞きしとります。それ以降そういう経費も含めてどういう運行形態でやっているのかというのは私も存じておりませんので、私どもで調べられるところはまた調べてはいきたいというふうには考えております。

○川崎副委員長 尾川さんがいい意見を言ったので、私も気になっただけですけど、今後競合するところが、2号、特に伊部から香登ルート、そういうこと考えますと、あえて日生運輸に7,000万円も出して寒河から片上までやっているのを、赤字路線でいろいろトラブってとまった経過があるんですけど、逆に補助金を出して今までどおり宇野バスが運行していたような料金と便数の確保をしないと、やはり便利が悪くてなかなか利用しないという側面があるので、そういうことも結果的に宇野バスさんとうまく手を結んでいく契機になるんじゃないかなと。

だから、日生運輸に同じ7,000万円使うんじゃないと、国道250や2号ではなく、今、南北じゃあ、東西じゃあ、斜めじゃあいろいろ新設しようところに、より交通量が多いところに日生運輸に委託運行をしていただくと、そういう柔軟な考えというんか、過去形に戻りますけど、そういうことも宇野バスとのいい関係を保つ上では私はいい案ではないかなあというのを尾川さんの意見を聞いていて思いましたので、ぜひ検討課題に入れていただいたほうが。少し日生運輸に偏り過ぎではないかなと、7,000万円ものお金を払うのは。せめて1,000万円か2,000万円くらい宇野バスに払うてもそういうルートの確保をしていくのが、今までの歴史的経過を踏まえれば、私はより協力、協調関係が保てるのではないかなという考え方を持っていますので、参考にしていただければと思います。

○下山まち営業課長 わかりました。参考にさせていただきます。

ただ、1点だけ皆さんに知っておいていただきたいというのがございます。

宇野バスさんは、今現在、どこの自治体からも補助金を受けずに運行をされています。これはなぜかと申しますと、やめたりするとか、それから便数の変更、時刻表の変更、バス停の変更というのを公共交通会議にかけなくてもできます、というようなことがございます。ですから、宇野バスさんが時刻表を変えるだとか、バス停を減すだとか、路線をやめるというのは、ダイレクトに陸運局へ届け出をするだけでオーケーなんですね。

日生運輸さんは、私どもから補助金を出しとりますから、ちゃんと公共交通会議に諮ってオーケーをいただいて、私どもちゃんと交通会議でオーケー出しましたよという証明をつけて出さないと陸運局が受けてくれないというような経緯もございます。

そういう部分で、宇野バスさんは、多分うちのほうが何ぼか出すから走らせてくれないかと言うても、多分受けないという可能性も非常に高いと。今までの交渉経緯でそういう経緯もあるというふうに聞いております。

逆に宇野バスさんは林野まで行っていたのを途中でやめて、それ以降がどういう形態になっただけなのか、今、尾川委員が言われたような部分は私どもも研究して行って今後いい方向に。だから、補助金を出すというんじゃなくて、いろんな部分でのやり方を模索していかないといけないのかなあというふうには考えておると。それだけ知っておいていただきたい。

○川崎副委員長 廃止路線だけ交通会議にかけるという限定的会議というやり方はないんですか。えらいかた苦しい、岡山県走つとる宇野バス全部交通会議にかけにゃあかんように聞こえるんじゃないか。じゃなくて、廃止になった西片上から寒河、企業団地までの補助金を出すから、限

定的交通会議ということであれば、宇野バスさんには一切経営上迷惑はかからないじゃないんですか。そういう考え方はできないんでしょうか。

○下山まち営業課長 今副委員長が言ようられるのは、路線ごとにはどうかということですね、その辺ができるかどうかというのも、陸自のほうにも聞きながら全体でやっていくのか、各自自治体、路線ですから、各市町村通つとりますので、いろんな部分での制約があるかもわかりません、その辺は研究させていただきたいと思います。

○川崎副委員長 よろしくお願ひします。

○下山まち営業課長 ありがとうございます。

○尾川委員 もう一点、要するに乗車人員をどう想定しとんかということと、どんどんどんどん線引いてこうすりゃあ、そりゃ確かに地図の上では何ぼでも描けるんですけど、金の問題とその効果というか、誰が乗るのか、どのくらい乗るのかということもやはりよう調査して、施行したはというてすぐ、よその自治体の悪口言うんじゃねえけど、やめたとかというふうなことになるように。そのあたり、何かせえ言うたから、こっち線引いて、あっち線引いて、こう通った、乗った、乗るだろうというふうな安易じゃなしに、もっと市場調査というか、本当に乗車人員がどれだけ確保できるのかというのを、難しいことで、どっちが先かという、卵が先か鶏が先かというような話になるんじゃけど、それも頭のどっかへ置いて考えてもらわんと、ただ線引いてこっちが便利よなるからというて、走らしたは、乗らんはというてまたすったもんだというようなことにならないように、慎重に対応してほしいと思います。

○下山まち営業課長 委員のおっしゃるとおりだと思います。

当然、乗客人数、料金もいただくわけですから、そういう部分も含めておりますが、私どもは、乗客人数だけではなくて、あくまでも安心、あれが走っているから安心という部分も当然住民の方にはあるというふうに認識しております。

それから、もう一点でございますが、観光客、観光に来たときに備前市は行ったら車で行かなくても路線がいっぱいあるよと、いろんなところに行けるよという、そういうPRですか、アピールもあるというふうに認識しておりますので、私どもは乗客人数だけのことは考えておりません。それから定住という部分も当然考えていきます。それがあから年をとっても安心だという部分もございます。そういう部分、全体的な部分で、委員皆様も、ほんならどこに重きを置いたら備前市、もう定住を一番に考える、いや乗車人数だけ考えればいいんだというような委員さんのお考えがあるのであれば、それをもとに私どもも考えていきますが、その辺は一緒になって、いい交通体系をつくりたいというふうに考えておりますので、いろんないいアドバイスがあれば、うちのほうにも提案していただければというふうに考えております。

○田原委員長 委員長、変わってください。

〔委員長交代〕

○川崎副委員長 変わります。

○田原委員長 まず、これで環状線を充実するべきじゃないかという点、それから結局、直行便

が全て必要なか。備前病院に行くんでも三石線、それから日生から来る線、これ全部重なるんですよ。それぞれ3つのハブ的なところで乗りかえて、ダブらないようにして、ダブる線はその便数をふやすというようなことを考えられてはどうかということがまず第1点。

もう一つは、三石寒河線、これは少なくとも寒河から五石まで行く線はもう不要と言うたら問題あるけど、余り効果がないんじゃないかと。少なくとも三石のところを何か工夫したほうがむしろいいんじゃないかというふうに思いますが、いかがでしょうか。

○下山まち営業課長 今、まず1点目の環状線でございますが、実は、私どもの今考えております最終形でございますが、委員おっしゃるとおり、伊里中、マルナカ穂浪店、それから西片上か伊部、恐らく西片上になるかと思いますが、ここをやはりハブというふうに考えて、ここで乗りかえてあちこち行ける。この環状線に関しましても内回り外回りというようなものをつくって、内回りが正午とかちょうどの30分置き、その間が、15分、45分置きということで、15分間隔で伊里中のほうに行かれたり、片上のほうには必ず行けるんだというような格好でやってみたいという大きな構想は持っております。

今までもずっと言っております、基幹路線をまずしっかり整備して、それから支線を整備して、そのときにうまくいくときに限って、ある程度わかって、環状線も走らせながら、ちょうど乗りかえが必要にはなってきますが、そういう部分での利便性を上げるというふうに考えておまして、その辺を効率よくできないかなということで今考えておると、委員長おっしゃるとおりの分ですね、ハブとして考えておりますので、その辺は御協力いただければと思います。

2点目でございますが、三石寒河線、これもあくまでも計画で入れております。御存じのようにその利用が少ないと見込まれるのであれば、やはり選択肢の一つとしてやめる云々も視野に入れて考えていかないといけない。あくまでも構想ということでの案でございますので、いろんな意見をお聞きしながらやっていきたいというふうには考えております。

○田原委員長 最後のことから言いますけど、構想といってもこういうことを描くと、ええかげんなことしか考えとらんんじゃないかなという印象を受けるので、慎重に出されたらいいんじゃないんですか。そういうことになると、佐山のほうのこの線はそんなもんかというふうに思われがちなので、気をつけられたほうがいいんじゃないですかということです。

それから、最後の日生線それから吉永線か、それから三石から来る、片上、備前病院間が全部同じ時間にこの間だけがダブるんじゃないかと思うんですわ。やはり病院に合わせてというたらその時間に合わせた線がそこへ行くんで、片上、病院間はピストン運行するようなものだけして、もう伊部まで、病院まで行く線は片上で面倒でも乗りかえてもらうということで不便のないような感じをしたほうがダイヤについてもいいんじゃないかと。その辺一工夫されたらどうですか。提案ですから、答弁はいいです。

もう一点は、公共交通会議というのは陸運局の関係ということで、海も入れんといかんのじゃないかということになったということなんですよ、先ほどの冒頭の説明の中で。じゃなかったかな。

○下山まち営業課長 公共交通会議の要綱としましては、船は今までも入っております。ただ、今回は公共交通会議の中で船とバスと一緒に検討するんじゃないで、船は船、バスはバスという部分での部会じゃないですけども、分けて考えたいと、開催したいというふうには考えておまして、ここで要綱改正をさせていただいたということでございます。

○田原委員長 わかりました。そういうことのようならそれで結構です。そういう中で、いわゆる架橋がかかった後の島への公共交通についての検討はその後あるのかないのかだけお聞きします。

○下山まち営業課長 今までの方針と変わっておりません。

○田原委員長 わかりました。

では委員長に変わります。

〔委員長交代〕

○川崎副委員長 委員長が言われたんですけど、西片上から病院については、先ほど説明の中でもタクシー運行業者の利用の問題があったでしょう。私は短時間で便数をふやすのは、バスではなくタクシー会社と契約して柔軟に、西片上でとめるとしたら、次から次に南北線、東西線じゃあ、三石線じゃあってどんどん入ってくるわけでしょう、西片上に。そのときに、病院に行く方は優先的にタクシーで、定期じゃなくて、常時行かす待機なりの契約というのを、いろんな視察行ったらあるんですよ。定期路線でバス停で人が乗れないという場合は、即座にバス会社ではなくタクシー会社がバックアップして連れていくというような方式をやっているところがあるので、そういうことを考えますと、まず片上、病院間がそういう利用、タクシー会社を利用できるんじゃないかというのを1点要望しますし、先ほど佐山線が単なる案ではないかと言ってますけど、私は案で結構。これもバスではなく、オンデマンドのような、タクシー会社と契約して、30分なり1時間前にタクシー会社の拠点から来て行く時間より、より早く電話いただいたら行けますよというような形で、きめ細かくタクシー会社を使えば枝葉を完全に網羅できる形があると。常にバスかマイクロバス、そういうものを走らすという固定的観念はだめですよということを、私は全国を視察してそう思っているんで、タクシー会社の利用を最優先ということではないけど、きめ細かさではタクシー会社を利用するということを要望します。

○田原委員長 ほかにありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

ないようでしたら、この件はこれぐらいにして、次に進めたいと思います。

次に、日程2、観光及び公園についての調査研究に入ります。

まず、委員派遣についてお諮りいたします。

本日、委員会閉会后、古代体験の郷「まほろば」の現地調査を行う予定としていますが、本件について、委員を派遣することに御異議ございませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

御異議なしと認めます。よって、委員を派遣することに決しました。

次に、この件につきましては冒頭申し上げましたように現地で説明をするということにさせていただきますが、時間の関係もあるようですので、ここでこれだけは言っておきたいということがありましたら、現地へ参加できない方もおられるようなので聞いておきますが。

別にないですか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

ないようでしたら、そうさせていただきます。

それから3、4の行政視察のまとめにつきましては、それぞれの委員さんから報告書を出していただいて、本議会で報告ということにまとめさせていただきたいと思います。

よろしいですか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

それでは、以上で総務産業委員会を閉会いたします。

午前10時38分 閉会